サイエンス・エッセイ

電子心母

吉田　隆　（ＮＴＳ代表取締役）

第3話
ロマンチック・サイエンス（5）
鏡のトリック（下）模倣力

●サックス博士が語った病的模倣の路上観察が、本稿執筆の直接の動機だが、

以前より、‘コノハ蝶’が木の葉に同化する生物的な仕組みと、周囲環境を内部に取込む‘人間の心’の仕組みの共通点に疑問を持ったことも後押した。昆虫や動植物との対比でいえば、周囲環境との同化を妨げる‘自我’の存在が、戦争や日々の諍（いさか）いの要因となることを思えば、人類は種の進化の袋小路にあるのではないかと思うことさえある。心が周囲環境との同化に成功したように見える、仏教における‘無私’は、コノハ蝶と同じ‘心境’なのか？**「心は環境を正確に再現する装置である」**が本稿の主旨である。他人も環境の一部なので、心は他人をミラーシステムを活用して正確に再現する。それが人をある種の病に誘う。生の本能エロスは、生も死をも意味するが、それさえ一種の**「模倣感」**か、と思えるのである。

●7月に亡くなった臨床心理学者河合隼雄氏の著書『物語を生きる』の中に、次の話がある。

ある女子高生はすれ違う人が思わず振向かずにおれないほど美しかったが、ある日自殺を企てた。カウンセラーが理由を尋ねたところ、「自分を見る男性の目があまりにいやらしいので、自分の内にとても醜い部分があるのに違いない、と思い自殺に走った」と語った。河合博士は、「醜いのは男性の方であり、あなたはあまりに美しいだけなのだ」と言うのは簡単だが、それでは少女は安心しないだろう。むしろ、自ら告白するように、少女の内部に男性の醜さに呼応する部分がありそれが彼女の魅力の一端をなす、と考えるべきではないかと締め括った。

●‘魔法の鏡（心）’の‘枠’を‘考える私’、鏡を‘見る私’と言い換えよう。

17才前後の思春期の少年少女は、しばしば特殊な心理に陥る。一つの理由は、短期（できごと）記憶を司る海馬の機能が一気に亢進し、記憶の皮質への定着が伴わないためだと思える。それは、短期記憶を長期記憶に変換する機能が働かず、‘考える私’が皮質の然るべき領域に育たないためである。その結果、‘見る私’が‘考える私’に先行し過ぎると、彼らは考えるよりも感覚世界に止まり現実との接点を失う。現実を失った彼らは、記憶が生むバーチャル世界に生き始める。仮に彼らの見る力、感じる力が異常に高まると、ミラーシステムが暴走する形で、他人の顔かたち、姿や動作を正確に取込み始める。その際、行き場を失った‘考える私’が、他人が再現される現場に流れ込むと一種のアイデンティティの事件が起る。‘考える私’と融合した他人が、私に成り代り考え始めるのである。こうした‘見る私’による‘考える私’のある種の補償作用が、魔法の鏡（心）を舞台とする病的模倣の第二のトリックではないかと考える。仮に、少女が「美しい私を見てほしい」という意識を持ち、その意識が「見る私」に流れ込み、少女が内部に再現した男性と融合すると、「お前は美人だな」と男は汚く語るかも知れない。それは、男（実は少女）の口を借りた少女自身の言葉だが、そのことに気付かなければ、少女は自己嫌悪に陥るだろう。

●病的話題に偏りすぎたが、‘模倣’は大なり小なり日常的できごとでもある。

‘嫉妬’‘キレる’は模倣できない気持ち、‘愛情’‘慈悲’は模倣できる気持ち、‘憧れ’‘熱狂’は模倣したい気持ち、私は私なのに‘本当の私’を求めるのは、私を模倣できない（私になれない）私の気持ち、なぜ人はロボットを作ろうとするのかは模倣したい人類の気持ち、現代人は‘模倣力’が問われる時代に生きている。こんな心の母体である脳は人生のロマンチック・サイエンスの舞台そのものである。

脳は空よりもひろい
／ほら、二つを並べてごらん
脳は空をやすやすと容れてしまう
／そして　あなたまでをも

（エミリ・ディキンソン（1862年頃）『脳は空より広いか』より）

（参考引用文献）
1）「妻を帽子とまちがえた男」（O.サックス著　晶文社　1992年）
2）「物語を生きる」（河合隼雄著　小学館　2002年）
3）「脳単」（河合良訓監修・原島広至著　NTS　2005年）
4）「脳は空より広いか」（J.M.エーデルマン著　草思社　2006年）

◉編集後記

まだまだ日中の日差しは強いですが、夜にはふわりと窓のカーテンを揺らしながら入ってくる夜風を心地よく感じられるようになってきました。暑くて寝苦しい熱帯夜からも解放され、フル稼働で日夜働き詰めであった我が家のエアコンも、ここ数日はお休みです。先日、日本の晴れた夜空では皆既月食が見られました。その昔、古代ギリシャの哲学者アリストテレスは、月に映る地球の影がまるい形であることから「地球はまるい」と唱えたと言われています。縁側がベランダに、お団子がおつまみに変わっても、月をじっくり眺めながら物思いに耽ける秋の夜長の過ごし方も悪くないなあと感じる、そんな季節の到来です。（長）

◉編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-0034　東京都文京区湯島2-16-16　㈱エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係
FAX：03-3814-9152　E-mail：eigyo@nts-book.co.jp

NTSニュース
2007年9月号（通巻103号）
2007年9月7日発行